



撮影：山田新治郎（表紙、並びに当ページ）

玉野市立銚立小学校

岡山県玉野市

今号から始まる「建設タイムトラベル」。日本の産業や文化を支えた建築物・土木構造物を訪ね、その「昔」と「今」を紹介する。

雑巾がモップに変わったが、長い直線廊下を児童が掃除する光景は、開校した九二年前と同じだ。東西に百数十メートルの長さで伸びる木造平屋の校舎も、開校当時の姿をとどめている。入口付近に展示されていた、メジャーリーガー・大谷翔平選手から寄贈された新品のグローブが、木造の茶色い空間から浮き出し、歴史の重みを加速させていた。

岡山県南端の玉野市にある市立銚立小学校である。県内では最古の現役校舎となる。十数分歩けば瀬戸内海が広がる風光明媚な場所にある。校舎の正面に立つと、横に長く伸びる屋根とともに愛らしいピンク色の洋風玄関ポーチが目につき付く。外壁は、明治・大正期の西洋建築に多く見られた下見板張で、往時を偲ばせる。内部は、正面玄関を中心に東と西にそれぞれ約四〇メートルもの直線廊下が設けられている。壁に飾られている約四〇年前の掃除の風景写真には、朝の

実践活動として、大勢の児童がこの直線廊下で雑巾がけをする姿が写っている。毎日磨かれ続けてきた床はピカピカだ。勉強から一時開放される校内清掃は昔も今もちょっと楽しい。九〇年以上変わらない木造空間は人の心を揺さぶるのか、はしゃぎながら雑巾がけをする子どもが原体験と重なって目に浮かんだ。

児童の数は減ったものの、昼休みには校庭で遊ぶ元気な声が今でも響く。親子が三代以上にわたり同じ空間で小学校生活を送るのは珍しいこと。銚立小学校の前身から数えて今年で建学一五一年、現在の校舎になって九二年。校歌にも歌われてきた赤い屋根の校舎は、地元住民に愛され、シンボルとなっている。



校長室に保管されているたくさんのアルバムの中の1枚。1960年代と思われる。当時、「ホコタテ」の人文字を空撮するのは一大イベントだったに違いない。周りの田園風景と長い直線の屋根とともに卒業生の記憶を蘇らせてくれる1枚であろう。（提供：玉野市立銚立小学校）